

治山事業による山地災害の防止

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：令和6年7月25日からの大雨において、5か年加速化対策によって整備した治山ダムにより、山腹崩壊を未然に防止する事前防災効果を発揮し、下流域の鉄道や道路の安全の確保に寄与した。

対策名：3 山地災害危険地区等における治山対策<5か年加速化対策>【農林水産省】

- 実施主体：林野庁東北森林管理局
- 実施場所：秋田県湯沢市
- 事業概要：山地災害発生リスクの高い地区における治山対策の実施（治山ダムの設置）
- 事業費：約7,600万円

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
復旧治山事業	治山ダム	約7,600万円	R3~R4
うち5か年加速化対策	治山ダム	約7,600万円	R3~R4

■ 災害の外力、被害と効果：

令和6年7月25日からの大雨により、秋田県湯沢市では24時間雨量207mm、1時間最大雨量39mmを観測し、秋田県においては多数の山地災害が発生した。

湯沢市の国有林においては、治山ダム（谷止工）が山脚固定機能※を發揮し、山腹崩壊による林地荒廃及び崩壊に伴う土砂流出による下流域の鉄道や道路への被害を未然に防止した。

同施設は、設置以降、施設上流側への堆砂による土砂流出抑制機能を發揮しており、今後も継続的に事前防災効果を發揮していく見込み。



※山腹斜面の脚に当たる部分を固定して、崩壊の発生等を防止する機能

治山対策直後の状況 (R4)



下流側から見た状況



上流側から見た状況

山脚固定機能発揮状況 (R6)



右岸側から見た状況



上流側から見た状況

山脚固定機能が發揮されたことにより、地盤が安定し、植生が繁茂している。治山ダム上流側へ土砂が堆積し、土砂流出抑制機能を發揮している。